

グローバルコーポレート ベンチャリング室 (CVC)

進化するオムロンのコーポレート ベンチャーキャピタル

グローバルコーポレートベンチャリング室長 兼
オムロンベンチャーズ株式会社 代表取締役社長

井上 智子

オムロンのコーポレートベンチャリング機能を担う、グローバルコーポレートベンチャリング室(以下、CVC室)は、「自律社会から自然社会への進化に於いて 私たちは、オムロン、そして社会を変革していく“BOOSTER”になる」をビジョンに掲げています。このビジョンのもと、世界を変える力をもつ、世界中の起業家・投資家と共

に、オムロンの掲げる社会的課題「カーボンニュートラルの実現」「デジタル化社会の実現」「健康寿命の延伸」を解決する、“ソーシャルニーズの創造”の加速に取り組んでいます。

CVC室は、社会的課題解決を目指すベンチャーへの投資を目的としたOVC2号投資事業有限責任組合(OVC2号ファンド)を通じて、新たにスタートアップ3社への出資を実行しました。2022年度の出資先1社目となったEagle Genomics Ltd.(イーグル ゲノミクス社)は、マイクロバイオームの多変量解析を迅速に実現するソフトウェアを開発し、長年のボトルネックとなっていた統計処理上の課題を解決、ヘルスケア領域での実用化に向け、大きな1歩を踏み出しました。

2社目の、医療介護現場のリハビリテーションのオートメーション化に取り組む株式会社Rehab for JAPAN(リハブ フォー ジャパン社)は、介護士らが医療介護の

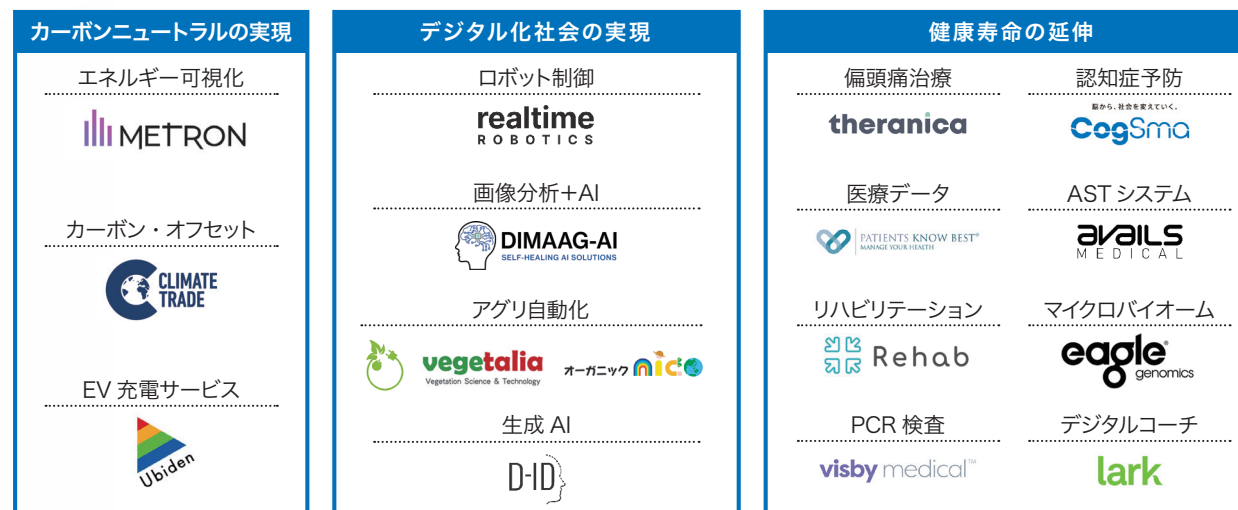
現場でリハビリテーションを行う際の負担を低減するソフトウェアを用いたソリューションを提供し、今後さらに加速する高齢化社会への貢献を図っています。

3社目の投資先であるユビ電株式会社(以下、ユビ電)は、安心・安全・便利な暮らしと自然環境の両立を実現するエネルギーシステムで、「カーボンニュートラルの実現」を目指しています。ユビ電とオムロンの電子部品事業(DMB)は、オムロン岡山事業所において、EV充電サービスの実証実験を進めるなど、「カーボンニュートラルの実現」に向け具体的な共創活動をスタートしています。

CVC室では、これら3社を加え、これまでに24社への出資を完了し、オムロンが自ら定めた3つの社会課題の解決に向け、ポートフォリオの拡充を図っています。

また、CVC室では、新たな人材活用のあり方として、「事業部門とスタートアップとの共創を生み出す仕組み

〈ポートフォリオ図〉



の構築」と「投資先へのアクセラレーションプログラムの実行」に取り組み、コーポレートベンチャリング機能の強化を図っています。

長期ビジョンSF2030を実現するためには、ハイサイクルに共創を促進していく必要があります。深い業界に対する知見や多種多様な事業資産を持つ事業部門と、斬新なアイデアを驚異的なスピードでカタチにしていくなスタートアップとの共創は、競争環境が目まぐるしく変わる最適化社会に必須のオープンイノベーションです。そこで、2022年度より制御機器事業（以下、IAB）と新たな取り組みを開始しました。IABの開発エンジニアがCVC室に出向し、スタートアップの探索から投資、共創に向けた技術価値の判断を、IABとスタートアップの架け橋となって実行するプロジェクトです。

もう1つの人財活用の取り組みが、投資先へのアクセラレーション活動です。オムロンには多種多様な事業資産や副業人財募集といった制度があり、スタートアップが必要としているミッシングピースをもっています。こうした事業資産や社員の専門性を活かすべく、CVC室のメンバーを投資先であるスタートアップへ送りこみ、事業成長を加速させています。2022年度に実施した活動では、脳検査事業の拡大のため、臨床試験のプロトコルの改善と薬事開発を実施しました。オムロンのアクセラレーション活動は、投資先の事業成長を図るだけでなく、派遣する社員自らに、成長の機会や気づきを与える活動です。

CVC室ではこうした取り組みを通じて、今後も、世界を変える力をもつ、スタートアップを支援するとともに、目指す自律社会の実現に貢献する人財づくりに活かされてまいります。

事例 1

事業部門とスタートアップとの共創を生み出す仕組みの構築

事業会社がスタートアップと共創を進めるうえでボトルネックとなるのは、多くの場合、コミュニケーションや環境変化に対応するプロセスのスピードが異なることです。そこで、CVC室では、事業部門とスタートアップそれぞれのニーズを理解するメンバーが、双方の立場で事象を捉えコミュニケーションに介入し、両者の事業成長を促すよう、迅速にオープンイノベーションを推進することで共創を加速させています。この共創活動に取り組んでいるのが、IABでAI開発に取り組むロボットエンジニアの月川です。エンジニアとしての自身の経験から、事業創出のあり方としてスタートアップとのオープンイノベーションに関心をもち、IAB内で募集されたプロジェクトへの参画に自ら手を挙げました。プロジェクトへの参画について、月川は「当初想定していたとおり、日々、やりがいや学びがある、体験をしています。IABという事業体を、スタートアップという外部の視点でみることで、事業領域の広さやロボット業界のスピード感を体感でき、製品や技術の開発に専念しているだけでは得られない経験や人との出会いから新たな刺激を日々得ています」と述べています。

CVC室は、事業部門とスタートアップとの共創を生み出す仕組みを更に拡大させており、月川は、その中心メンバーとして、IABが保有する事業資産とシナジーを生み出す可能性のあるスタートアップの探索を続けています。

グローバルコーポレートベンチャリング室
(原籍:インダストリアルオートメーション
ビジネスカンパニー 技術開発本部
第1技術部)

月川 正善



事例 2

社員も投資先も成長させるアクセラレーションプログラムの実行

新たなアクセラレーション活動を自ら企画し実行したのが、CVC室のメンバーでオムロン全社の専門人財でもある小竹です。小竹が事業支援を行ったスタートアップは、2021年度よりオムロンがリード投資家となり、出資・支援をおこなっている、株式会社CogSmart（以下、コグスマート社）です。コグスマート社は、「脳医学とテクノロジーの力で、一人ひとりがいつまでも健やかに、心豊かに暮らすことができる社会を作る」をビジョンに掲げ、認知症予防に向けたソリューション開発に取り組んでいます。2022年度からは、支援活動の一環として、小竹が同社の内部に入り込み、自身の専門分野である生体工学のスキルを活かした、アクセラレーション活動をおこなっています。

支援を開始した当時を振り返り、小竹は、「コグスマート社が抱える課題の解決に向け、メンバーと同じ目線で議論し切磋琢磨していくことで、たくさんの気づきを得ることができました。スピードと実行力は想像以上のもので、社会が抱える課題を何が何でも解決するという強い意志にも感化されました。」と述べています。活動を終えてCVC室に帰任した小竹は、現在コグスマート社での経験を活かして、新たなスタートアップへの支援活動を行っています。その姿は、以前にも増して、スタートアップとオムロンの両社をつなぐ架け橋となり、ソーシャルニーズ創造に向け自ら活動する人財へと成長しています。

グローバルコーポレートベンチャリング室
共創戦略センタ
兼 オムロンベンチャーズ株式会社
小竹 康代

